

公園墓地のさきがけ

開苑55周年

我が家族、  
春秋苑に眠る。

作曲家・1909年～1989年

古関裕而



故・古関裕而氏のご長男・古関正裕氏。  
今も歌い継がれる名曲に、父を思う。

人は亡くなくても、作品は残る……。今も多くの方に愛される父の音楽にふれるたび、そんな思いが胸に湧き起こります。春秋苑のお墓もまた、父が家族に遺してくれた優しさなのだと思います。多忙さゆえ、故郷・福島へのお墓参りもままならなかった父。「子供達が出かけやすいように」と、古関家の東京のお墓を新たに建てたんです。父が逝って二十数年。富士が見える見晴らしの良い墓所で、母と共に安らかに眠っています。

●古関裕而氏のプロフィール 福島県出身。本名・古関勇治。20歳の時、国際的な作曲コンクールに日本人として初入選。翌年、コロムビア専属作曲家として上京。歌謡曲はもとより、NHKドラマ「鐘の鳴る丘」の主題歌や早大応援歌「射野の空」、東京五輪の行進曲「オリンピック・マーチ」など八十年の生涯で5,000曲にも及ぶ作品を手掛けた。勲三等瑞宝章など受賞歴多数。

ご利用者の宗教・宗派を問いません

お問い合わせ資料のご請求は

0120-07-4100

<http://www.shunjuen.or.jp/>

小田急線生田駅

高級公園墓地

春秋苑

〒214-0036 神奈川県川崎市多摩区南生田8-1-1



# 名曲と共に父が遺した、家族への優しさ。

故・古関裕而氏の墓所について、  
ご長男・古関正裕氏にインタビューしました。

うちは、家族で墓参する習慣がなかったんです。

父は、福島市の有数な呉服屋の長男として生まれました。仕事の都合で東京に移り住みましたが、先祖代々のお墓は福島県の信夫山にあります。一方、母方のお墓は、母の出身地である愛知県・豊橋市にあります。両親とも多忙だったので滅多に故郷に帰ることができず、僕ら姉弟もお墓参りをした記憶がありません。子供の頃、ニュースで、



お盆やお彼岸に家族揃ってお墓参りをしている光景を見るたび「自分も行ってみたいなあ」と羨ましく思ったものです。

春秋苑を勧めてくれたのは一番上の姉でした。

たしか昭和五十年代だったと思います。生田に引っ越した姉夫婦が、春秋苑にお墓を買ったんです。もともと義兄の実家のお墓が春秋苑にあり、新居に近いことも魅力だったようです。

姉から春秋苑が「良いところ」だと聞いた父は「東京にも古関家のお墓があるといいんじゃないか」と、さっそく購入を決めました。口には出さず、僕ら姉弟が「いつでもお墓参りに行けるように」という、父の優しさだったんだと思います。

母の希望を叶えた  
富士山の見えるお墓です。

古関家の墓所は、見晴らしの良い春秋苑の中でも特に小高い場所にあります。区画を選ぶ時、父が「富士山が見えるところがいい」という母の意見を尊重したんです。わずか四カ月の文通を経て、若くしてスピード結婚した両親ですが、生涯とても仲の良い夫婦だったと思います。その後、いくらか経たないうちに母は他界。十数年後、父が逝きました。今は二人揃って美しい富士山を眺めていることでしょう。

父の遺してくれた音楽。その魅力を伝えたいですね。

「人は亡くなっても作品は残る」と、最近しみじみ感じます。父の音楽の素晴らしさを伝えるメッセージャーでありたいとの思いから、一年ほど前から各地でライブ活動を行っています。長男としてお墓を守りつつ、父が遺してくれた音楽の遺産を、これからも多くの方と分かち合っていきたいですね。

